

Contents

02 目次
プロローグ Vol. 22

04 特集 企業連携×SDGs 2030へ行動で挑む

教育

- 08 絵本教育で意識・行動を変革 インド
- 10 子どもたちに質の高い学びの機会を カンボジア

農業

- 12 チョコレートでSDGsに貢献 マダガスカル
- 14 ニンニクで深まる農業交流 ベトナム

エネルギー

- 15 小さな発電機が暮らしを変える ネパール
- 16 “見える化”でエネルギー効率を改善 バングラデシュ

医療

- 18 誰もが健康診断を受けられる社会に バングラデシュ

防災

- 20 浸水被害を食い止め安全な暮らしを タイ

22 海外展開をカタチに

24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 21
タイ

26 世界につながる教室⑪
“書く”ことを通して世界を学ぶ

28 地球ギャラリー Vol.143 南アフリカ共和国
写真・文●木下貴史 フォトグラファー
引き継がれるマンデラの挑戦

34 教えて! 外務省
知っておきたい国際協力②③

36 JICAイベントカレンダー

38 読者の声、プレゼントほか

39 JICA PRESS

40 わたしが見つけたSDGs Vol.23

*掲載されている情報等は取材当時のものです。



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust



カンボジアで進む日本企業によるア
プリ教材を使った学校教育。コロナ禍下
ではオンライン授業を配信。

前へ！ 前へ！ 前へ！

文●税所篤快

「もう恋人としてみられないの」

僕が彼女にフラれたのは19歳のときだった。悲しみにく
れた僕は、「彼女を見返すために、一人前の男になる」と
決意した。そんな折に、書店で偶然手に取った本が『グラ
ミン銀行を知っていますか*』だった。創業者のムハマド・
ユヌス博士は、2006年にノーベル平和賞を受けていた。

「この人のもとで働きたい！」

著者の坪井ひろみさんを訪ね、銀行の現場の話を聞いて、
さらに居ても立ってもいられなくなった。失恋から3か月
後、気づけば友人たちとバン格拉デシュのグラミン銀行本
部の前にたどり着いていた。そのときである！偶然、ユ
ヌス博士が本部に歩いていく。僕たちは駆け出した。

「ここで働かせてください！」

緊張と英語力の欠如によって、僕の言いたかったことは
伝わらなかったに違いない。しかし、何かを感じたユヌス
博士はしっかりと握手してくれた。

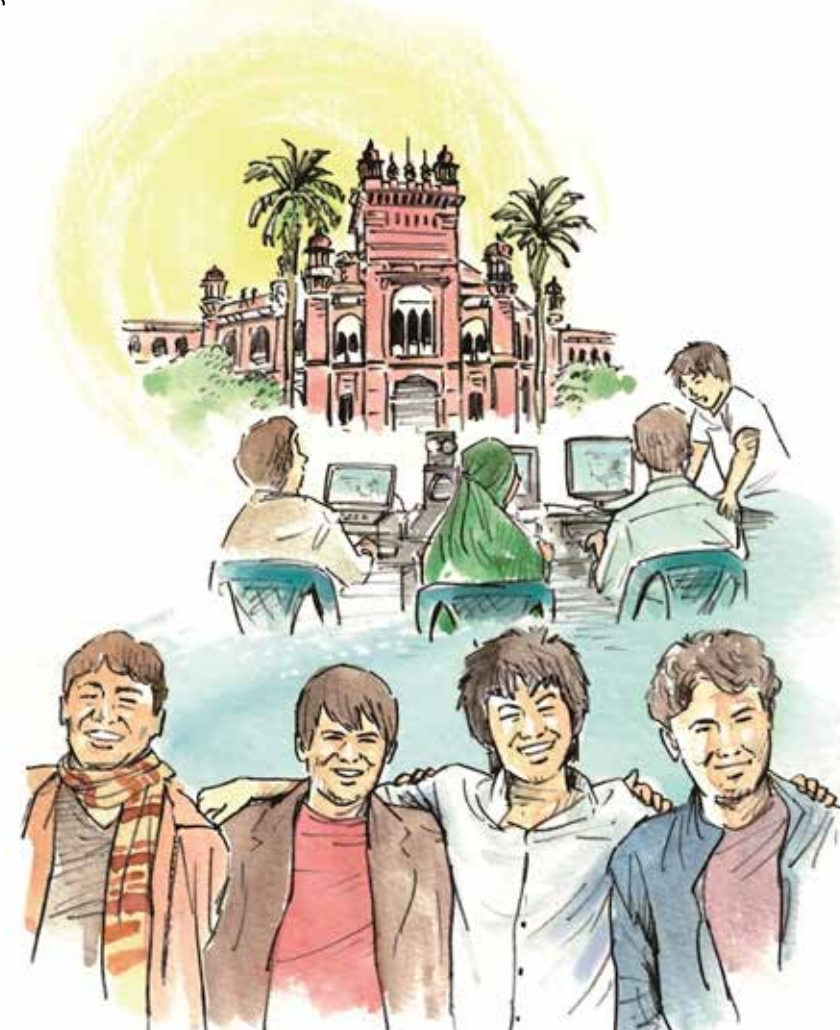
インターンとしての僕らの仕事は、バン格拉デシュのハ
ムチャー村の村人を訪ね、彼らが何に困っているのかをヒ
アリングすることだった。暑い日差しのもと、村をリキシヤ
で訪ねた。学校には数えきれないほどの子どもたちが、教
室にすし詰め状態で学んでいた。生徒の数に対して、全国
では4万人ちかく先生が足りないという。

村のゲストハウスで迎えた月のきれいな夜、僕はふと大
学受験のときに通っていた予備校で、みんながDVDによ
る映像授業で学んでいたことを思い出した。1年間の予備
校生活で、偏差値28から第一志望の早稲田大学に合格した。
「あの映像授業を、この国に持ってこよう！」

その後、僕はユヌス博士に思いついたアイデアを伝えた。
ユヌス博士は僕にこういった。

「Do it! Do it! Go Ahead! (前へ！前へ！前へ！)」

僕は体の芯から痺れるような感覚を感じた。あのユヌス
博士が、僕に「前へ！」と言っている。僕はこの言葉をお



イラスト●中村知史

守りに大学に休学届けを出し、バン格拉デシュで初となる
映像授業プログラム「eEducation」を立ち上げた。

教室の立ち上げは挑戦の連続だった。仲間が拳銃強盗に
襲われてプロジェクトの原資が強奪され、日本企業を何社
も回って資金を調達した。政治紛争の影響でプロジェクト
がストップしたり、僕自身、腸チフスに倒れたりした。村
の高校生たちが勉強へのやる気をなくして不登校になった
ときには、バスを借り切ってダッカ大学に連れて行くなど
して、生徒たちを鼓舞した。

ユヌス博士の言葉から1年後。eEducationの教室を開
いたハムチャー村から、高校生たちが国内最難関のダッカ
大学をはじめとする有名大学に続々と合格を果たした。そ
の姿は「ハムチャー村の奇跡」と呼ばれ、テレビや新聞を
にぎわせた。約10年が経過する間、同村はほぼ毎年、ダッ
カ大学の合格者を出し、村の高校生たちの希望になっている。

僕はその後、仲間と一緒に、バン格拉デシュ以外の14か
国で教育事業の立ち上げに挑戦した。しかし、失敗の数の
ほうが多かった。ひとえに僕の経営能力の欠如のせいだ。
eEducationの代表としてのポストも「経営が適当すぎる」
と交代になり、未承認国家ソマリランドで立ち上げようと
した大学院は、過激派青年の暗殺予告によって頓挫。鎖国
状態のソマリランドでは、革新的なプロジェクトは必ずし
も歓迎されなかったのだ。その後、僕は失意のもとに帰国
して、企業人になり、結婚して、父になった。そして、二
人目の息子が生まれる今年、パレスチナ難民向けの新しい
プロジェクトの立ち上げを準備している。そう、僕の胸の
中にはユヌス博士のあの言葉がまだ燃えているのだ。僕は、
「前へ！前へ！前へ！」と焦がれている。

税所篤快(さいしょ・あつよし)

国際教育支援NPO e-Education創設者。1989年、東京都足立区生まれ。
早稲田大学教育学部卒業、英ロンドン大学教育研究所(IOE)準修士。19
歳でバン格拉デシュに行き、同国初の映像教育であるe-Educationプロジェク
トを立ち上げ、最貧の村から国内最高峰ダッカ大学に10年連続で合格者
を送り出す。同モデルは世界銀行のイノベーション・コンペティションで最優
秀賞を受賞。現在、リクルートマーケティングパートナーズに勤務し、スタディ
サプリに参画。最新刊に『未来の学校のつくりかた』(教育開発研究所)。